

生音を限りなくナチュラルに再現するアコースティック・ギター・ペダルがL.R.Baggsから登場!



ACOUSTIC GUITAR
IMPULSE RESPONSE PEDAL

L.R. Baggs エル・アール・バッグス
ヴォイスプリント・ディー・アイ
VOICEPRINT D.I.

価格：オープン・プライス(実勢税込み価格：¥55,000前後)
問：ジェーイーエスインターナショナル(TEL.0561-72-9801)
<https://jes1988.com/lrbaggs>

「このVOICEPRINT D.I.で改めてIRの実力を思い知ることができた」矢堀孝一

エル・アール・バッグスが発表した新製品「VOICEPRINT D.I.」は、同メーカーのスタッフが3年近くの年月をかけ完成させた画期的なアコースティック楽器専用のインパルス・レスポンス(IR)。専用アプリ「AcousticLive」をダウンロードしたiPhoneと連動させ、音を測定することによって、まるで録音スタジオで録ったようなサウンドを再生。アコースティック・サウンドを次世代へ進化させたこの話題のギアをギタリスト矢堀孝一が試奏し、レポートしてもらった。

噂のアコギ用の最新アイテムを期待感丸出して試奏

アコースティック・ギターにおけるPAシステムへの接続は、長い間ギタリストたちが最良のサウンドを求めて日々闘ってきたわけです(笑)。ワタシはアコギは専門ではありませんが、大きめのホールでのコンサート、赤坂のジャズ・クラブ「virtuoso akasaka」でもアコギのライブ演奏の機会があり、やはりPAへ、ダイレクト・ボックスなどを通してアコギのピエゾの信号を送って演奏してきました。ピエゾの音というのは音圧感はあるけど効率的なのでその点はとてもいいのですが、普通にアコギを弾いている生の音や、マイクを立てて拾う音(レコーディングはそうしますね)とはまったく別モノで、特にコードのストロークなど音がバリバリで、慣れていないと最初はとても戸惑います。しかし、ピエゾ

のシステムやプリアンプなどをいろいろ試して「これはこれでなかなか良い音だなあ」って領域になんとか辿り着いてたりするのが現状かもしれません。

さて、このところのマルチ・エフェクターなどでも主流になってきたのがIRという技術。最初、「IRという赤外線何か?」と思ってしまったのですが(笑)、今や時代はこのIRでかなり面白いことができるようになってきたと言っているでしょう。マルチ・エフェクターでのプリアンプ、特にスピーカー・シミュレーションでは、このIRが今や当たり前で、機材を選定する時に「IRはあるのか?」というのを選定基準にしている人も少なくないのです。簡単に説明すると、このIRとはある短い波形の信号をスピーカーに送り込んで特定のマイクなどで取り込んでその変化の具合などを測定してより精度の高いシミュレーションを完成させる方法で、多くのマルチで採用されています。そのIRデータをさまざまなマイキング、マイクの種類などで作成して販売している人も結構います。

さて、今回試奏した巷で噂のL.R.Baggs「VOICEPRINT D.I.」も、IRの技術を使い、実際にマイクで拾ったギターの音とピエゾの音の差異を測定、演算、それをブレンドし(IR100%も可)、適度にAnti Feedback、EQの処理をしてプロファイルできるという、まさにアコギの最新アイテムなわけです。

つまりこの新製品に何を期待するかというと、今まで諦めていた「ピエゾから信号で送っているのに、マイク録りみたいな音で演奏できる!」と、まあ夢のようなストーリーが想定されるわけですが、果たしてIRでどこまでそれが実現されるのか! というわけでそんな



SOUND CHECKER

矢堀孝一

KOICHI YABORI

FRAGILE、Fazjaz.jp、大高清美(org)、向谷実(kb)などのグループ、およびソロ・アーティストとしても多数のアルバムをリリース。一方で、インストラクターとしての評価も高く、90年代本誌連載の「穴でも弾けるジャズ・ギター」をはじめ多くの著作物も執筆。Virtuoso AKASAKAでは定期的に「ギグ」を行なっている。最新アルバムはKiyoshi * Sen Jazzの「DEUX」。WEB=<http://www.uprize.jp/yabori/>



Kiyoshi * Sen Jazz
「DEUX」
4月3日発売

期待感丸出して試奏に挑みました。

SNS用の録画・録音、ネット上でのセッションなど幅広く活用可能

これもまた最近の主流になりつつある、スマホ・アプリとBluetoothの通信で操作ができる、ちょっとITが苦手という方には障壁のある仕様なわけですが、これはただ便利だからそうなったわけではなく、スマホのマイクを利用して本体に接続したピエゾの信号との比較・分析をする目的なので理に適った方法だと言えます。Bluetoothという「ペアリン

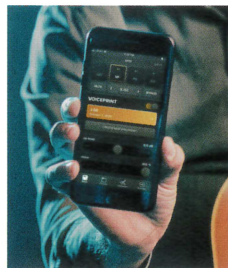
L.R. Baggs VOICEPRINT D.I.



IR技術と高度なDSPにより、自然な生鳴り感を再現するアコースティック・ギター用ペダル。使い方は、まずiPhoneの処理能力を活用してアコースティック・ギターの音響特性を測定。その特徴を「Voiceprint」と呼ばれるデータ化し、それをペダルにメモリーすることによって、ピックアップの信号を正確なアコースティック・サウンドに変換でき、どんなシチュエーションでも、アコースティック・ギター固有の響きや音色を再現することが可能になるという画期的なシステムだ。

サウンドの測定や音作り、各種設定はiOS無料アプリ「AcousticLive」からすべてのコントロールが可能。さらにこの度アプリがアップグレードされ、Apple Watchでも全く同様の操作ができるようになった。ハウリングを防ぐためのフィードバック・コントロールも搭載されている。

SPEC ●インプット端子：1/4インチ標準フォン ●センド/リターン端子：1/4インチ標準フォン ●アウトプット端子：1/4インチ標準フォン、XLR DI Out ●A/D D/Aコンバーター：24bit、96kHz ●DSP：32bit floating ●電源：DC9Vアダプター(500mA/付属)



※iPhone6以降に対応 Apple Watchでもコントロール可能
※Android携帯には非対応(2021年4月現在)

グ)や認識で、あれこれ面倒な印象があるかもしれませんが、最近のBluetooth製品は、ホントに精度が上がって簡単に接続できるようになってきましたのでご安心を。本機も説明書にある操作で簡単に接続できました。

専用アプリ「AcousticLive」をダウンロードし、本機の電源を入れ、ギターを「input」に接続します。ギターの電池切れなど基本的なことはご注意ください。それとギター弦は新しいものにしておいた方がいいですね。取説に従ってペアリングを完了させて、「create voiceprint」でデータを作っていきます。この時、作業の行程をすべてインストラクションしてくれますので簡単に「VOICEPRINT D.I.」データを作ることができます。主な手順は……

●ピックアップ付近のボディを叩く

- コードを弾く
- アルペジオを弾く
- スケールを弾く

これらそれぞれ指示が表示されてアプリが「次のステップへ」と指示を出してくれます。こうして「VOICEPRINT D.I.」のデータが出来たら「save」しておきましょう。そしてその後は主に……

●「voice」でピエゾのブレーン音と「VOICEPRINT D.I.」の音をブレンドする割合を決める(ツマミで設定できます。0にするとピエゾそのものの音になり、数字が増えると「VOICEPRINT D.I.」の割合が増えていきます。僕の場合は60%~70%くらいが好みでした)

●EQで「VOICEPRINT D.I.」のサウンドを調整する(楽器にもよりますが、ロー・エンド

やハイ・エンドが出過ぎてしまうのでEQで調整します。プリセットもいくつかあるのでパラメトリックEQに馴染みのない人は利用するといいでしょう。僕はロー・エンドをカットし、1kHz付近を少々減らしてみました)

●Anti feedbackは、必要があればツマミで量を操作する(音色は多少変わります)

ブレンドする際にピエゾと「VOICEPRINT D.I.」の「位相問題」が気になっていましたが実際はそういう心配はありませんでした。ブレンドしていても特に違和感が出るということはなく、音色が普通にブレンドされ……所謂、コンデンサー・マイクが内蔵されているタイプのアコースティック・ギターのバランスの取り方とはまったく違うと思いました。「voice」を0にした時のピエゾ感がバリバリな感じがホントによくわかって面白いですね。完全に振り切って100%でもイケると思いますが、音圧感としてはピエゾの固さも残した方がむしろいいかなと思いました。

今回の試奏で、改めてIRの実力を思い知りました。これなら、無理にマイク取りせずにこのD.I.からのラインでの録音も視野に入れていいかなと思いましたし、今後SNS用の録画・録音、ネット上でのセッションなどを含め幅広く活用できるだろうと思います。この「VOICEPRINT D.I.」のアウトプットをダイレクトにミキサーに、ってわけです。因みに、本来はスティール弦のアコースティックがターゲットですが、ガット・ギターでも試したところとても良い結果が出ました。USB端子は、アップデート用で、音声信号の通信はできません。また現在のところiPhone6以降に対応、android携帯には対応していませんのでご注意ください。

CLOSE UP



アプリ上で「VOICEPRINT D.I.」のレベルや、バランスなど細かい調整が可能



EQはプラグインで慣れている僕にとっては最高！ これですよこれ、実には使いやすい！



Anti feedbackもこのようにAnalysisしてくれる。設定時同様にインストラクションも表示される親切設計

アンプ・エフェクト/プロセッサ

コンパクトなボディにワイヤレス機能を搭載した
アンプ・エフェクト/プロセッサ

Line 6 POD Go Wireless

ライン・シックス/ポッド・ゴー・ワイヤレス

価格：オープン・プライス(実勢税込み価格：¥77,000前後)

問：Line 6インフォメーションセンター

(TEL.ナビダイヤル 0570-062-808) <https://line6.jp>



Line 6から、高性能なワイヤレス機能を装備した「POD Go Wireless」が発売された。本機はワイヤレス・レシーバー(受信機)を本体内に搭載しており、トランスミッター「Relay G10TII」(送信機)を付属、トランスミッターをレシーバーにセットすると瞬時に最適な信号を自動的に検出してくれる。1回の充電で最長7時

間の駆動が可能だ。サウンドの基本は、同社のフラッグシップ・モデル「Helix」から継承された高品質なアンプやキャビネット、エフェクトで、4.3インチの大型のカラーLCD画面とカラーLEDフット・スイッチ・リングを装備した8基のフット・スイッチにより、スムーズなエフェクト操作が可能だ。

ベース・アンプ

机上でプロ仕様のサウンドを楽しめる
35W出力の超小型ベース・アンプ

Phill Jones Bass NANOBASS X4

フィル・ジョーンズ・ベース/ナノベースX4

価格：オープン・プライス(実勢税込み価格：¥32,780前後)

問：ジェーイーエスインターナショナル(TEL.0561-72-9801)

<https://www.pbjapan.com>

多くのベーシストに愛用されているベース・アンプ「フィル・ジョーンズ・ベース」から、超小型のベース・アンプ「NANOBASS X4」が発売される。幅160mm、重さ2.4Kgという机上でも手軽に鳴らせるサイズでありながら、高性能



カラー=レッド、ブラック、ホワイト

な4インチ・スピーカーとパッシブ・ラジエーター「RALFER」を搭載し、サイズを超える低音再生能力と表現力を持っている。さらに同社初となるBluetooth入力を装備し、ハイレゾ・レベルの高音質なサウンドを再生することが可能だ。ベース・アンプとオーディ

オ・スピーカーの性格の異なる音がそれぞれ心地よく再生できるようにチューニングが施されているのも特徴。コントロールは、インプット・レベル、ベース、ミッド、トレブル、マスター・ヴォリュームに加えてAUX/Bluetoothのヴォリュームも装備。

ギター・アンプ

ヴァイブロ・チャンプにデジタル・リバーブを追加したコンパクトで高性能なギター・アンプ

Fender '68 Custom Vibro Champ Reverb

フェンダー/68カスタム・ヴァイブロ・チャンプ・リバーブ

税込み価格：¥101,200

問：フェンダーミュージック(TEL.0120-1946-60) <http://fender.co.jp/>



フェンダーから、「Vibro Champ」の機能とサウンドを受け継いだ「'68 Custom Vibro Champ Reverb」が発売された。本機の元となったVibro Champは、わずか5Wの出力でありながら、フェンダー伝統のトレモロ効果や、チューブ・サウンドが特徴的なモデルで、そのVibro

Champの特徴はそのままに、デジタル・リバーブを追加し、10インチ・スピーカーを搭載することで、豊かな低域とサウンド・クオリティを向上させた。コントロールは、ヴォリューム、トレブル、ベース、リバーブ、トレモロのスピード、インテンシティとなっている。

エレクトリック・ベース

アクセサリ・キットが付属し、
すぐに演奏が楽しめるエントリー・モデル

Gio Ibanez Bass GSR200

ジオ・アイバニーズ・ベース

価格：オープン・プライス(実勢税込み価格：¥25,000前後)

問：星野楽器販売(TEL.0561-89-6900)

<https://www.ibanez.com/jp/>

オート・チューナーや、シールド、ピック、ストラップ、クロス、ソフト・ケースが付属し、購入するとすぐに演奏が楽しめるGio Ibanezシリーズより、エレクトリック・ベース「GSR200」が発売された。価格も実勢価格で25,000円前後と安価に抑えられているが、スペックはワンランク上の仕様になっており、ボディはボブラ、ネックはメイプルにジャトパ指板となっている。ピックアップは、オリジナルのPJタイプを搭載し、コントロールは2ヴォリューム、1トーンに加えて、サウンド全体を最大約10dBブースト(100Hz付近をブーストし、1,000Hz付近を抑える仕様)できるアクティヴ・イコライザー「Phat II EQ」を装備し、幅広い音色作りが行なえるようになっている。カラーは、ブラック、ジュエル・ブルー、パール・ホワイト、ソーダ・ブルー、トランスベアレント・レッドの全5色。



トランスベアレント・レッド

SIRE/MARCUS MILLER試奏
Contemporary Jazz Magazine

JazzLife

COVER
STORY

安藤正容
[T-SQUARE]

T-スクエア 在籍ラスト・アルバム

「フライ! フライ! フライ!」を語る



SCORE

ヤードバード組曲

タル・ファーロウ

ザ・ウェイ・ユー・ルック・トゥナイト

ジョニー・グリフィン

ソー・ホワット

ハービー・ハンコック(ジャズ・ドリル)

バルバドス

(ジャズ・トランペット入門2)

モダン・ジャズ再入門

ジョニー・グリフィンの名演

「ザ・ウェイ・ユー・ルック・トゥナイト」研究

新作インタビュー

デイヴ・ダグラス

アーティスト・サロンとも言える
グリーンリーフ・ミュージックを主宰

アルバム企画

タル・ファーロウ

生誕100周年記念UHQCDコレクション

INTERVIEW & LIVE REPORT

太田 剣/丹羽悦子

山本 連/堀江敬子

RICH & RICCI

曽根麻央/永武幹子/兵頭佐和子

6

2021
JUNE